

2月16日(水)

東京は雨。タクシーに家の前まで入って貰う。新宿のホームで電車を待っている間が寒かった。成田のチェックインは問題なし。ただしゲート41 迄約1km歩かされた。

14:40 ゲート41へ。暑い。

15:40 Boarding 開始

16:10 Gate off

16:27 Take off

8:35 Landing on

LAは晴。入国審査に指紋採取と顔写真撮影が加わり時間が掛かる。問題なし。Baggage Claimに着いたのは大分経ってからなので荷物はすぐに手元に。モデルボックスにはFragileのステッカーが何枚も貼られていた。税関で中身を聞かれたがそれだけでパス。

Door to Door ShuttleでMonroviaのBob Whiteの家へ。再会を喜ぶ。二人とも元気だ。Jeanは耳が遠いようだし私の発音では分かり難いようでBobが仲介してくれる。土産にYSF30年誌と信楽焼の蛙を進呈する。蛙は以前訪問したとき玄関の前に大きいのが鎮座ましましていたので仲間に入れて貰うために機内持ち込みで運んできた。無事で何よりであった。両方とも喜んでくれる。

昼寝をする。3時半起床。Bobはこのごろヴィンテージモデルに凝っているようだ。どれもが実に正確でかつ美しい。チェコ人設計の1954年モデルの写真撮影する。

5時過ぎにレストランに行く。ステーキディナーと言われたが、Bobの健康を心配してシーフードにする。ポテトが多い。帰宅後、芙美子に電話。シャワー。天気予報では明日は雨。



2月17日(木)

明け方ぐっすりしたため5時半にBobに起こされ

る。6時10分、Lost Hillsに向けて出発。オレンジジュースと紅茶をテルモスに入れたのを車に。Jeanは喘息気味で息をぜーぜーしながらもよく動く。そして良く気が付く。MAXMENのロゴの入ったトレーナーを誕生祝いとしてプレゼントされる。早速着用。車は5号線に入り一路北へ。途中までは何回かTaftに行くのでお馴染みの道だ。そのTaftへの道を通り過ぎたところから霧のため視界50m位になる。ノンストップで2時間半走って私の宿泊するLost Hills Motel 6に到着。予約の確認をする。ここで明日から飛行場へ同乗させてくれるCameron Ackerleyに会う。カナダの医学博士だ。Lee Hinesとも再会。

飛行場には約15km位というところか。しかし入口から未舗装の道を延々と走る。既に20台くらいの小型車からトレーラーまで様々な車が駐車している。レストランも開業している。広い。とにかく広い。地面は草に被われている。靴が濡れる。スニーカーは失敗だった。色々な人に会う。箱を持ち出し、まずは倉田さん寄贈のCLGを飛ばす。Bobが誉めてくれる。次いで柏谷さんのペーパープレーンを飛ばしたがこちらは草の水分を吸って柔らかくなってしまった。F1Hは2回フライトを試みる。1回目のDT落下は急過ぎて危なかったが無事。BobはFIGのテストフライト。1回目はゴム切れで上昇がいまいち。2回目はオーケー。でも翼が紙貼りなので湿気に弱いので競技をするかしないかは天気次第といっている。

車の中でスープとビスケットの昼食。食後、他の機体のテストをしようと組み立て中に雨。急いで片付ける。

Seattle在住のMike Robertsにモーテルに送って貰う。箱はBobの車に置いたまま。

夕食はDenniesでSuper Bird Sandwichを。レストランはここしかない。粗食の旅行になりそうだ。コンビニでビールとビーフジャーキーを仕入れる。

Cameronのルームナンバーを忘れる。フロントでは教えてくれない。電話は繋いでくれるが不在だ。



明日の朝連絡しよう。

2月18日(金)

F1H 競技日。6時起床。コンビニでパンとヨーグルト。\$1.64。スプーンを貰うのを忘れたのでプラスチックコップを切り開いて代わりにする。吟味しないで買ったパンは表面に砂糖がまぶしてあるアメリカ人の好きなやつ。糖尿病になるはずだ。Cameronに連絡がつく。8時45分に部屋に行く。飛行場入口に着くと車が立ち往生している。雨でぬかるんで入れないらしい。Cameronが様子を見に行く。長い時間車の中で待つ。やがて帰って来たら少し先の別の道から入る。左右に滑りながらも漸く辿り着く。

雨と晴れが交互にやってくるおかしな天気。Kochkarevが練習をしている。バントで30m位高度を稼いでいる。Stamovがニューモデルを見せに来る。4個のサーボを内蔵しておりひずみゲージでフックのテンションを検出してラッチを外すか閉じるかを制御している。何れサーマルセンサーを機体に装着してワイヤレスで送って来るようになるであろう。ここまでくるとFFの概念から外れていると言わざるを得ない。でも世界の趨勢はこちらに向っている。F1A, Hは機械式ではもう勝てないであろう。

12時競技開始。曳航準備をしていたら雨が降ってきた。機体が濡れる。雨中で曳航そして発航したがピッチングを起こし76秒。水平尾翼が雨で重くなったのが原因であろう。Bobがバイクで拾ってきて肩をすくめる。彼はFIGを飛ばすのを諦めた。雨の中では紙の翼では競技にならない。でもポリエステル翼にする気はないようだ。彼の機体は昔のままでメカらしいものは何もついていない。DTタイマーが粘性流体式に変わった位だ。何故VITや可変ピッチプロペラを使わないのかと聞くと必要を感じないからという答え。確かに競技会で好成绩を挙げているので必要無いのかも知れない。

雨が止んだのでテストフライトをする。問題はないようだ。以後の4ラウンドは120s。3Rが一番の上昇。4Rは勢い余って宙返りをしたがサーマルキャッチ。世界チャンピオンがタイマー、助手、拾い屋の3役をしてくれる。贅沢だ。それにも関わらず不注意で成績がいまいち。申し訳ない。

フライオフ。各カテゴリー一斉ではなくFIGから順次行う方式。GもB並みに垂直上昇して目測だが80m以上上がるのが殆どだ。HではKochkarevのタイマーになる。4分悠々クリヤー。4分以上のフライトは目が追いつきそうもないので辞退する。

薄暗くなった中をモーターへ。Arbyでチキンバーガーと唐揚げを買って部屋で黙々と。佐びしい。

2月19日(土)

7時に出発。雨と風。果たして入口に車が数台。中で立ち往生した車があるようだ。Bobの大きなキャンピングカーが中から出られるか心配になってきた。でも正規の入口から入り草の上を通過して何とか辿り着く。競技は30分遅れで開始。Ackerleyのタイマーになる。Bobは拾い屋を。双眼鏡が見にくいので苦労する。風で揺れるためか。4Rで風が強くなり競技は中断。30分後再開。でも結局5Rでこの日の競技は終了する。それにしても猫の目のように変わる天気だ。Ackerleyは5マックス。彼は左利きなので左手で投げるように機体のタイマーなどが反対側に付いているし、ゴムは右手で反対に巻いている。

夜のBanquetにBobとJeanそれとCameronも出ないのでPiserchio夫妻に私を運んでくれるようにBobが頼んでくれる。それにしてもWhite夫妻は面倒見が抜群でまた気がよく付く。USA TeamのTシャツを5枚購入したら早速Jeanが丁寧に畳んで袋に入れてくれるし、水は？ジュースはと矢継ぎ早に聞いてくる。

私が日本人と分かるとShigeru Kanegawaはどうしているときく人が非常に多い。F1Cフライヤーとして傑出しているのと人柄のせいであろう。嬉しいことだ。

泥道をよろけながら、時に草地をジェットコースターの如く上下しながらモーターへ。駐車してある車の殆どが泥だらけだ。カーウォッシャーが繁盛して喜ぶであろう。

America's Cup Award Banquetに出席して驚いたこと。その1。会場の壁に写真が何枚も貼ってある。Bob Whiteのも3枚あった。前にBill Hartellが出したFree Flight Reviewに掲載の写真がある。大半がモノクロであるが正面左側にカラーがある。近寄ると我が小堀さんのMAXMENでのスナップではないか。よく出してくれたと感激をする。そこへJohn Davisがきてカボーリ(アメリカ人はコボーリではなくカボーリと発音する)が優勝した時の話をする。Bob & Connie Piserchioを呼んできて披露する。他にも何人かが集まってくる。カボーリを知る人が多いのに驚く。MAXMEN 14Rで優勝するのが如何に大変でかつ偉大であることを知らされた。

その2。表彰式の冒頭、まず紹介したのは10代のフライヤーだ。起立したのが15人位いた。女の子も混ざっている。昨日のFIGでフライオフに残った男の子もいる。ジュニア世界選手権に参加する選手もいる。10代フライヤー皆無の日本の現状を考えると何とも羨ましい限りである。帰りの車でPiserchio夫妻にこのことを話したら5年程前から若年層が増え

てきたとのこと。この背景には調整済みの完成品が価格はともかくとして入手し易くなっていることが挙げられよう。子供が一から自作をして競技会出場に耐えられるような機体を仕上げるのは難事業だ(大人でもそうだが)。

日本でも篤志家により模型飛行機教室が開かれ、それなりに成果を挙げているが、その大半は「作って飛ばす」を目指しているようだ。しかし、ライトプレーンといえども「飛ぶように作る」のは子供や初心者にとっては難しくその段階で先に進めずに諦めてしまうことが多いであろう。むしろ主催者が作って調整をしてある程度飛ぶことを確認した機体を飛ばさせてやることも考えるべきではないだろうか。

考えることの多い一日であった。

2月20日(日)

今日も Cemeron のタイマー。4Rはピッチングに入り残念。5, 6Rは調整し直してチャレンジ。DTが5秒位早く作動するも十分な高度をとっていたのでマックス。ところが7Rでまたまたピッチング。パーフェクトを達成するのは難しい。

タイマーの間 F1A,B を見学する。驚いたことに Aでは7才の男の子が引いている。流石にサークリングはしないがバント発航がそれなりにキマッてい



る。10年もしたら良いフライヤーになるであろう。中学生位の女の子もBを飛ばしている。

それにしても F1A は旧ソ連系モデルだけ。タイマーには Roger モデルを使っているだろうが変わり映えない。F1B は Andriukov モデルの正統派か亜流のオンパレードだ。儲かっているのは旧ソ連系モデラーだけだ。Bob が彼等は半年しか仕事をしていないと皮肉を言ってたっけ。しかし、Andriukov もこけてしまった。やはり14Rは大変な競技だ。

なお F1C では前折れプロペラを堂々と使用していた。FAIでは禁止することになっているのに。

倉田さんから頂いた CLG (catapult launched glider 日本では PLG、pachinko launched glider と呼んでいるが) 広い場所なのでおもいきり飛ばしていたら Lee Hines が Perfect! と賞賛したので進呈する。彼は大型のDT付きのCLGを飛ばしていた。

F1A のフライオフが2人、Jim Parker が優勝、B が6人、Cが12人(!)

途中で大雨、車に避難したので結果は分からずじまいとなった。

Cameron の車で3日間運んで貰った。私の MAXMEN は終わった。感謝の握手。心配だった Bob のキャンピングカーも現場を脱出できたようだ。モーターに戻ると駐車スペースに停まっていた。ここで夜を明かし明日7時に出発の予定だ。

2月21日(月)

コンビニで昨日とおなじブルーベリーマフィンとヨーグルト、それにモーターのただのコーヒーの朝食をして Bob の車に。7時スタート。最初は雨は降っていなかったが途中から激しく降り出す。5号線の峠に近いピクニックエリアで止めて污水处理を行う。夫妻がジャンパーを着て外に出る。ホースを車に取り付けて排出させている。やり方が分からないので手が出せない。雨はますます激しく視界も悪い。Bob のハンドル捌きは慎重だ。10時過ぎ White 家へ戻ったときも雨は止まない。荷物を家に入れて一休み。食事をしに Dennies に行くというので当然昼飯と思い、ディナーは私に招待させて頂きたいというので快く承諾してくれる。ところが2時頃出発するからそれまで昼寝でもしているという。そこで約1時間ほど寝て起きていたらその間に泥だらけのバイクを綺麗に洗っていた。80過ぎとは思えぬタフさ加減だ。2時半に出発。スーパーに寄って貰いお土産の定番たるカレー向きの長い粒のカリフォルニア米を購入。Dennies に着いたのが3時過ぎ。どうもこの時間に昼飯とすると夕飯は何時になるのかなど? が湧いてくる。そこで支払いをすると「Thank you for dinner.」。矢張り昼夜兼用の食事だったのだ。払って良かった。そういえば彼等の食事は朝、昼は軽く

済ませていたのだ。雨中を帰る。帰ると又晴れる。すると夏の空が。

家中に写真が飾ってある。Jean が説明してくれる。もう曾孫までいる。家族と過去を大事にしている。ところで明日の Shuttle の予約を頼む。8 時で良いと思ったら、フライト時間を聞いてきて 11:15 という交通渋滞が予想されるので 6:45 に来るといふ。やれやれまた早起きしなけりゃ。



2月22日(火) 23日(水)

5時30分起床。朝食を頂く。トースト、バナナ、ジュース。6時30分、Shuttle 来る。再会を約し車中へ。LAX7時45分到着。料金チップとも\$45。チェックインは簡単。でもセキュリティチェックは厳重。靴まで脱がされる。無事通過。預けたバッグとモデルボックスを抜き取り検査で壊されないか心配だ。チョコレートなどを買う。

10:30 Boarding 開始。ものものしい。

11:16 Gate off.

11:38 Take off.

15:40 Landing on. (23日)

荷物が出てきた。ボックスが箱の中に入っている。取り上げると蓋の部分が壊れている。どうするところという壊れ方をするのか？一番上にあった胴体から垂直尾翼がもぎ取られている。係員に掛け合っても壊れても賠償請求をしないとの署名をしたうえで預かったのが責任は負いかねるとの定番的な返事。ガムテープで応急措置をして帰宅。ここまで素晴らしい旅行だったのに、最後の最後にケチが付き後味が悪いものとなってしまった。

追記 競技会の成績が SCAT EN で分かった。各種目3位までの入賞者の名前とフライオフ進出者数/エントリー者数を記す。

F1A

J.Parker, J.Nyhegn, R.Sifreet 2/36

ジュニアエントリー者数 9

F1B

A.Brdo, P.Ruyter, Evdokimov 7/44

F1C

R.Archer, R.Simpson, A.Gunder 12/23

F1G

Gorban, Crowley, Tymchek 11/23

F1H

Kochkarev, Stamov, Van Nest 10/17

F1J

Watson, Warren, Spence 12/13